

長瀬&スタローン

熱い絆で結ばれた



映画「エクスペンダブルズ」主演と日本版主題歌担当が夢対談

最新主演・監督作「エクスペンダブルズ」(10月16日公開)のPRで来日した米俳優のシルベスター・スタローン(64)がこのほど、同作の日本版主題歌絆「KIZUNA」(10月13日発売)を歌うシンガー・ソングライター長瀬剛(54)と東京都内で初対面した。お互いにハングリー精神を絶やさず、ストイックに肉体を鍛え続ける姿勢に共感した2人はすぐに意気投合。日米を代表するアクション俳優と歌手の間に熱い男と男のきずなが生まれた。

似たもの同士

長瀬は珍しく緊張していた。「ロッキー」「ランボー」シリーズでファンになったメカスターに、質問してみたことが山ほどあったからだ。

一方、スタローンも対談前に長瀬の楽曲のプロモーションビデオやライブDVDを見て、「おれたち、話が合わないわけじゃないじゃないか」と周囲に長瀬の印象を語り、対談を楽しみにしていたという。

スタローン

長「本当に生卵飲むの？」 僕「飲むけど」 ス「気持ち悪い。映画だけさ」 長「責任取れ(笑)」

は生身の肉体を使って描く迫力こそがアクション映画の神髄だと考える。彼の「ブナログ」な姿勢は、ファンに正面から立ち向かうために肉体を鍛え続けている長瀬にも共通する。

スタローンは「あなたの音楽は、いつも真実を歌っていらっしやる。僕も最近最後の作品だと思っっている。全力を注ぐこと。それが感動を呼ぶんだ」と力説した。

長瀬は、小さいころに体が弱くていじめられた経験があり、その悔しさが強くなるうといづきっかけになったと打ち明けると、スタローンも「とっても似てるよ。僕も問題だらけの家庭に生まれてね。12歳のとき、一人でステイプ・リースの映画『ヘラクレス』を見て、ああいうふうになりたいと思っただけ。映画館を出た後に右とか重い物を持ち上げたんだ」と秘話を明かした。

ここで、長瀬が「ダンベルを持ち上げる前に、『ロッキー』の名シーンのように(生卵は5、6個飲むの?)

ス「続編を作るから、それに出してくれないか？」 長「じゃあ、おれ主題歌もやるよ!!」

僕は白身だけ飲むけど……とおちゃめな質問をすると、スタローンは「うわっ、気持ち悪い。あれは映画のためだけだ」とキツパリ。長瀬はみんなキミにあこがれてキミのまねをするんだ。責任取れよ!と笑いながら突っ込んでいた。

すっかり体づくりの話で盛り上がったところで、長瀬が「いっしょに一緒にトレーニングをやりたい」と提案。するとスタローンの口から思いがけない言葉が出た。「じゃあ来年、『エクスペンダブルズ』の続編を作るから、それに出してくれないか?」。何とハリウッドデビューを打診されたのだった。

たとえリップサービスだとしても、うれしくないはずがない。長瀬も「じゃあ、おれ主題歌もやるよ!!」とノリノリに。スタローンのスケジュールにより、対談は約15分で終了となったが「長瀬は最後に『エクスペンダブルズ』(自分を犠牲にして大切な者を守る男)はもう一人いる。それはおれだ!!」と熱い言葉で締めくくった。

(江川悠)

初対面した長瀬剛とシルベスター・スタローン。2人でファイティングポーズを決めると、スタローンは「おれたち、マフィアみたいだな!!」=東京都内で